

第50回全国ミニバスケットボール大会 インテグリティ説明会

■ インテグリティとは

『誠実さ』、『真摯さ』、『高潔さ』

■ インテグリティ委員会の導入（流れ）

【スポーツ界における不祥事】

- 指導者の問題（体罰問題、各種ハラスメント…等） **2012年12月 桜宮高校バスケット部事件**
- プレーヤーの問題（暴力行為、賭博問題、各種ハラスメント…等）
- 組織、役員の問題（協会組織のガバナンス問題、各種ハラスメント…等）

対応

- **2014（H26）年12月 「スポーツ・インテグリティ・ユニット」の設置**

→JCS（日本スポーツ振興センター）

- **2017（H29）年12月 インテグリティ教育の推進**

→JOC（日本オリンピック委員会）

※**インテグリティ=人間力**としてオリンピック指定強化選手を対象にカリキュラムを作成

JBAとして

【目的】

- JBAが掲げる【**バスケットで日本を元気に**】の理念実現に向け、【**インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）**】に基づき**人間力・指導力・組織力**を高め、**バスケットボールの価値を高める**為の指針決定および啓発運動を目的とする

【方針】

- オールバスケット、連携・分担、専門性、年代別、成熟度別

■ インテグリティ委員会の立ち位置とは

規律・裁定案件を未然に防ぐための指針決定および啓発活動を行う

インテグリティは

過去の出来事を対象にするのではなく、これからのバスケットの価値を高めるように努める
また、適応については競技規則、JBA プレーコーリング・ガイドラインに則って**粛々と**判定していく

■ 判定について

テクニカルファウル（TF）として取り上げ、ノーマルファウル（NF）と同様に取り上げていく。コーチの振る舞いやゲーム中にコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対しては競技規則や JBA プレーコーリング・ガイドラインに則って判定していく

→JBA プレーコーリング・ガイドライン（20190401）5 ページ 7. テクニカルファウル（TF）参照

（例）床にボールを打ち付ける行為について

その行為をしている本人の意思を審判員は分からない。（これまで、このような行為をおこなったチームのチームスタッフ等が、あくまで自分のプレーの不甲斐無さに対してその行為をしているのであって、審判に判定等の抗議としておこなったわけではない という主張をしてくるチーム多数あった）

しかし

その行為がたとえ審判に対するものでないとしても、その行為はバスケットボールの価値を高めるインテグリティの精神に則^{のっと}るものであるか？

→インテグリティの精神に反するものであるのでテクニカルファウル（TF）の対象となる

※詳細はガイドライン 13 ページを参照

**（例）地区大会などで T.O 席の前まで行って抗議するケースが TF を取り上げられていない
インテグリティの精神に反し、ゲームの価値を下げる行為として認められる行動である**

よって

→テクニカルファウル（TF）の対象になる

（質）テクニカルファウル(TF)を取り上げられた後に、なぜテクニカルファウル(TF)の対象になったのか、なぜ取り上げられたのかを審判に対して聞くのは大丈夫か？

回答

→チームスタッフ等は問い合わせても良い。また、審判はコミュニケーションをとって答える必要がある。但し、判定に対するクレームには対応しない

《審判員としてチームや選手とコミュニケーションを図る際のポイント》

Key Word : 『Short and Clear』

→内容は競技規則やガイドラインに基づいたもので、短く、かつ簡潔に伝える

（例） コーチや選手:「今のプレーはアンスポではないのか!？」

審判:「違います」

※これでは十分に説明され、かつ納得いくとは考えにくい

コーチや選手:「今のプレーはアンスポではないのか!？」

審判:「今のプレーはボールにプレーしていたので、C3(クライテリア 3)[オフェンスが進行する中で、その進行を妨げることを目的としたディフェンスのプレーヤーによる必要のない触れ合いと審判が判断したプレー]には該当しません」

◎コミュニケーションを図ることが重要

◎審判側が誤った判定をしていれば謝れば良い

（質）地域柄、「アホ」というのは日常、使うワードなのだが、これも対象なのか？

回答

→良い方にもよるがワードだけピックアップするとインテグリティの精神に反するもの。一概に言えないがオフィシャルワーニングで注意・勧告し、コーチに警告する。再度、同様の発言がみられた場合はテクニカルファウル（TF）の対象となる。

（質）ベテランのコーチに対しては、インテグリティの精神に反したものでもテクニカルファウル（TF）を取り上げにくい

回答

→審判員はフェアに競技規則やガイドラインに則ってゲームを判定していかなければならない。現在、JBAとしては自分を積極的に出していく CC メンタリティー（クルーチーフメンタリティー）ということが審判員に求められている。このような状況では、積極的に CC メンタリティー（クルーチーフメンタリティー）を出していく必要がある。

■ インテグリティ委員会の決定による U12 での対応について

- JBA 含めすべての団体における共通スローガン（主題）として **【クリーンバスケット、クリーンザゲーム】** を決定した
- JBA としては副題として喫緊の課題である **【暴力暴言根絶】** とした
- 委員会としてスローガンを実現していくために以下を決定した
 1. **バナーを作成して大会においてメッセージを発信し、啓発活動を実施（2019年3月ジュニアオールスター、全国ミニ、4月より全国にて）**
 2. **コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言は競技規則に則りテクニカルファウル（C）として取り扱うことを確認した**
※今までテクニカルファウルの運用としてコーチが選手に対する暴言等をテクニカルファウルの対象として取り扱っていなかった
※暴力行為に対しては、ディスクォリファイングファウルとして失格退場となる
 3. 競技規則によりテクニカルファウル（C）2個で失格退場となるが、**規律案件（次の試合出場停止等）とはせず当該試合のみの対応**とする
※競技規則によるコーチの失格退場
 - (a) **ディスクォリファイングファウル 1個**
 - (b) **テクニカルファウル（C）2個**
 - (c) **テクニカルファウル（B）3個**
 - (d) **テクニカルファウル（C）+テクニカルファウル（B）2個**
 4. テクニカルファウルの対象となる暴力的行為及び暴言に関する事例集（ガイドライン）は、指導者養成・ユース育成部会で原案作成し、インテグリティ委員会で承認するものとする

■ テクニカルファウルの扱い

1. 試合中、**コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言に対しては、コーチのテクニカルファウル（C）**とする
2. **コーチのテクニカルファウル（C）2個で失格退場**とする
※U12ではこれまでテクニカルファウルによる失格退場はなかった

■ マンツーマン推進のテクニカル

1. マンツーマン推進における「赤旗対応によるテクニカルファウル」については **「マンツーマンペナルティ（M）」**とする
※競技規則に準じたテクニカルファウルと区別するため（マンツーマンペナルティは国内独自のルールである）
 - (①) **マンツーマンペナルティの場合、スコアシートコーチ欄に（M）と記述**する

- (2) マンツーマンペナルティ (M) は U12 においては 3 個 で 失格退場 とする
- (3) 失格退場に対しては規律案件としない
- (4) マンツーマンペナルティ (M) とテクニカルファウル (C・B) との 合算による失格退場は設定しない

■ コーチ失格退場のケースにおける U12 での対応 ※1

コーチライセンス資格を持つコーチが失格退場となった場合の試合継続の可否については競技規則に則り 没収試合の扱いとしない

※競技規則ではコーチが失格退場の場合、キャプテンが代行することになっている

1. ベンチにヘッドコーチの他にアシスタントコーチをおく ※2
2. アシスタントコーチがいけない場合はチーム代表者や保護者代表をベンチ登録すること

※1 大会要項に記載しておくことが望ましい

※2 複数の指導者がコーチライセンス資格を持っていることが望ましい

■ まとめ (ポイント)

- 審判は警察官や裁判官ではない。^{ごうまん}傲慢な態度で行うのではなく、基準を超えたものについては粛々と取り上げていかなければならない
- インテグリティの精神に反する発言・行為等については、テクニカルファウル (TF) として取り上げ、ノーマルファウル (NF) と同様に取り上げていく
- 今後、ブロック連携会議にてインテグリティについての現場の意見を聞き取り調査していく予定。意見等あれば、審判長経由で報告 (?)

■ 今後について

- JBA より書類にて新ルールの内容が伝達される予定 (来週頃?)